

新型コロナウイルス“第6波”による感染状況と グループの対策、今後について

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



昨年末から猛威を振るうオミクロン株。いわば新型コロナウイルス“第6波”により、健育会グループは複数の病院、施設で感染者を出しました。詳しい状況は各病院や施設で公表していますが、理事長の言葉としてお伝えすべきと考え、現状や対応、今後についてわたしの考えをお話いたします。



昨年12月まで当グループ内でクラスターは起きず、通常に業務は遂行されていました。患者や入居者、職員に散発感染はありましたが、大きな影響なく通常業務を続けることができたのは、スタッフを始めとするみなさんの意識の高さにあったと思います。

しかし、1月に入ると“第6波”が到来——感染者数は増大し、我々が細心の注意を払ってしても、その波に抗うことはできませんでした。1月15日の花川病院を皮切りに、数カ所でクラスターが発生。大変な状況が続きましたが、ようやく終息の兆しが見えてきたところです。

昨年9月にコロナ専用病院に転換した石川島記念病院では、1月と2月に陽性患者を101名受け入れました。軽症72名、中等症Ⅰ26名、中等症Ⅱ3名。なお、これまでの死亡者は0名です。（3月1日時点）



また、“第6波”によるグループ内における主なクラスター発生状況は以下の通りです。

※感染者数はいずれも2022年3月1日時点のデータに基づく

花川病院

1月15日に職員1名から陽性者が発生し、2月19日までに患者15名、職員19名の陽性。2月20日に終息となり、**2月21日**より全病棟通常運営に戻る

ねりま健育会病院

1月17日に職員3名から陽性者が発生。2月14日までに患者10名、職員14名の陽性。2月14日に別病棟から新たな陽性者が発生したため、現在、感染対策を継続中

ケアポート板橋

1月20日に職員から陽性者が発生。2月27日までに利用者47名、職員13名の陽性。**2月28日**をもって終息し、全てのサービスが通常運営に戻る

西伊豆健育会病院

2月10日に職員から陽性者が発生。3月1日までに患者54名、職員33名の陽性。救急、外来、入院診療を制限し、現在も感染対策を継続中

この他の施設でも、職員・患者・ご利用者から陽性者が発生しましたが、クラスターに至ることなく感染拡大を防ぐことができています。また、湘南慶育病院においては数名の感染でとどまりました。規模や環境を考慮すると、非常に適切な水際対策ができていたと思われます。また、石巻健育会病院、いわき湯本病院、介護老人保健施設しおん、ライフケアガーデン熱川については、これまでひとりの陽性者も出ていません。



個人用防護具（PPE）感染病床（レッドゾーン）を視察



今回のクラスター発生に関して着目すべきは、感染者数の多少だけでなく「初期段階での対応」です。ケアポート板橋で陽性者が出たタイミングは、都内の感染拡大と重なり、転院がむずかしい状況でした。そこで、グループのコロナ専用病院・石川島記念病院の医師らに往診を依頼。施設内で早期治療を実施できたことで、利用者の重症化を防ぐことができました。

世間では人流抑制が求められていますが、オミクロン株は非常に感染力が強い。ただ人の流れを止めたところで、感染を抑えることは困難です。多くは軽症で回復できますが、高齢者や持病のある方に関しては重症化する可能性も否定できません。“感染防止”だけに目を向けるのではなく、“初期治療”も重要なのです。



先日、琉球大学病院の藤田次郎教授が取材に応じているニュースを見ました。藤田教授によると、オミクロン株による致死率はインフルエンザよりも遥かに低い。しかし、亡くなってしまった方の多くが高齢者であった、と。高齢者や持病のある重症化リスクの高い方をいかに守るかが重要だと話していましたが、わたしも同じ意見です。

例えば高齢者施設で感染が確認された場合、転院先を待って何もしないのではなく、その時間で適切な初期治療をすることが重要。幸いなことに、オミクロン株には初期の抗体療法が有効です。また一部報道にもありますが、飲み薬が承認され、まもなく新型コロナウイルスはインフルエンザを同等の扱いとなるでしょう。高齢者や病気を患った患者と接する機会が多い我々としては、今後も初期治療に注力したいと思います。



今回の対応には、グループ内外で多くの力があつたことを感謝しています。職員・スタッフを始め、グループ内他院からの派遣応援や地域連携による支援もありました。これからも、わたしや本部メンバーは現場と同じ立場で取り組みます。「One Team」で、一緒にこの波を乗り越えていきたいと思っています。